



## 応用地質分野における多様なキャリアデザイン紹介（２） 応用地質学との出会いと生活の工夫

喜 里美\*

### 1. はじめに

私は鉄道の建設コンサルタント会社で、斜面防災業務を担当しています。入社14年目になります。今回は、私のこれまでの振り返ってと、現在、仕事・家庭・育児に奮闘している生活について紹介したいと思います。

### 2. 応用地質学との出会い

これまでの私を振り返って、応用地質学との出会いを紹介します。私は学生時代、理科が好きでした。小学生の頃、理科の授業で世の中の現象には理由（原因）があることが非常に面白く、理科に関する本を図書館で借りて夢中で読んだ記憶があります。同じ頃、阪神淡路大震災を経験しました。激しい揺れやテレビの映像に、子供ながらにショックを受けました。そのこともあってか、受験生の時に進学本を見ながら、ふと、地質学に目が止まりました。地質学は数学、理科等を応用していることや、私の高校には地質学の先生がおらず勉強できなかった心残りがあり、安易に（特に何も考えず）大学では地質学を専攻しようと思い、理学部地球学科を受験しました。

大学で地質学を勉強している中で、今度はJR西日本の尼崎脱線事故が身近で起こりました。連日テレビで繰り返される映像にショックを受け、しばらく電車に乗るのが怖かったのを覚えています。その後、就職活動の際、就きたい仕事を考えた時に頭に浮かんだのが、震災と列車脱線事故でした。「鉄道の防災に関わる仕事がしたい」と思い立ち、今の会社に願書を提出しました。

入社当時、社内には地質技術者がおらず、苦労しました。周囲は建設系技術者ばかりで、場違いな所に来てしまったと感じました。「なぜ地質なんだ、構造物の設計をやらなきゃダメだ」と酒の席で叱られたりして、その頃は色々悩みました。話が逸れますが、当時は「女は必要ない」や「お前が男だったらな」等と言われたこともありました。今では社内外でコンプライアンス教育がしっかりとされていますが、当時はまだまだあまり認識されておらず、これが社会人の洗礼なのかと思っています。

\*JR 東日本コンサルタンツ株式会社、ダイバーシティ推進特別委員会委員

した。

仕事では、協力会社の地質技術者の方々に大変お世話になりました。彼らにべったりくっついて現場に行き、調査方法を細かく教えてもらいました。そんな中、岩盤崩壊による列車脱線事故が発生しました。社内は「対応できる人がいない」と大騒ぎになりました。私はJR職員の方々や協力会社の皆さんと共に、昼夜問わず一生懸命働きました。この事故で社内での地質技術者の必要性が認識されました。そんな中、今度は東日本大震災が起これ、状況はすさまじいものとなりました。当時は若手だったこともあり、特に役立てることもなく悔しい思いをしながら、とにかく無我夢中で働きました。入社からの10年間、私は幸運にも幾人もの優秀な地質技術者、JR職員と出会い、激務ではありましたが、非常に濃い時間を過ごさせてもらいました。この経験が、私の心の芯となったと思います。

### 3. 現在の暮らしとWithコロナ

現在、私は夫と、子供（4歳と2歳）の4人家族になりました。子供が生まれてからは生活が一変しました。ここからは現在の生活を紹介したいと思います。

一日のスケジュールを簡単に紹介します。朝はとにかくバタバタで、朝食・お弁当作り、保育園準備、子供達を起こして朝食を食べさせ、顔を拭いて歯磨き着替え、合間に自分の身支度をします。8時に子供達を保育園に送った後は、在宅勤務の日はずっと仕事に取り掛かれますが、出社の日は電車の中でスケジュール確認、仕事の優先順位付けをします。勤務中は優先順位の高いものから淡々と作業をしていきます。夕方は18時までに保育園に子供達を迎えに行き、帰宅後は入浴、夕食作り、夕食を食べさせ、遊び相手をしながら簡単に片づけ、歯磨き着替えをさせます。子供達は敏感で、スキンシップが足りないと機嫌が悪くなるので、話をしながら遊びながら、触れ合いながら進めます。何をやるにも時間がかかりますが、夜寝るまでが貴重な親子触れ合いタイムとなっています。

子供が生まれてからは、限られた時間の中で仕事を終わら

せる必要性が出てきました。他の人にお願いできる事はお願いする。6割程度の完成を目指す等、とにかく効率重視です。職場では文字通り「脇目も振らず」仕事をしていると思います。後輩には話しかけにくい先輩だと思われるかもしれませんが。作業の指示も、できるだけ後輩が自分で考えて進めてほしいのですが、やっぱり効率重視で指示してしまうので、そのあたりは今後の課題です。また、現場に行く機会も激減しました。子供の体調不良で仕事に穴をあけることも度々です。職場の方々の協力が助けられています。現場での写真や報告書を読み、想像する日々です。だからこそぜひ、女性技術者は現場に行けるうちにたくさん行ってほしいと思います。

在宅勤務の日は仕事の合間に簡単な家事ができるようになりましたが、少ない時間の中で効率的に家事を回すことが必要です。また、家事を少し工夫、妥協することで、自分にかかるストレスを少しでも減らせることができます。ここからは生活の工夫について紹介します。

#### 1)家電の導入

手取り早いのは家電の導入です。我が家には食洗機、ロボット・コードレス掃除機、ドラム式洗濯機、電気調理鍋等の便利家電があります。一度に購入すると心もお財布にも負担がかかるので、出産や復職、引越しの度に少しずつ増やしてきました。操作やメンテナンスも自分一人で抱え込むと大変なので、面倒なことは夫にお願いするようにしています。

#### 2)自分のことは自分で出来るように

子供が(夫も!?)自分のことは自分でできるように、家の中を工夫しました。トイレや洗面所に補助便座や踏み台を置く。保育園の制服は子供の手の届く高さに掛ける。朝支度やお風呂の時は必要なものはあらかじめセットにして出しておく等です。保育園での練習のおかげもあり、2歳の子も帰宅時に自分で手洗いがいをし(最初の頃は床がビショビショに…)、洗濯物は洗濯かごに入れてくれます。入浴後は私が保湿剤を塗ってオムツを履かせると、あとは自分でパジャマを着てくれます。4歳の子も身支度は自分ででき、朝は自ら保育園の準備をしてくれます。

#### 3)家事分担

夫との家事分担は大きく分けて、料理と掃除が私、洗濯とゴミ出しは夫の担当です。最近は夫と子供達の3人でゴミ出しに行くようになりました。子供達は夫と一緒にゴミ出しに行きたいので、いつもよりも早めに起きてくれます。3人でキャーキャー言いながら楽しそうにゴミ出しに行ってくれます。

#### 4)ルーティン化

私の苦手な家事の一つに「献立を考える」があります。毎日

毎日、「今日のごはん何にしようか」と考えるだけで思考が停止し、ストレスを感じます。そこで、献立は2週間ルーティンにしました。基本的なルーティンを決めておき、スポット的に好きな時に好きなものを作る(買う)ことにすると、気持ちが楽になりました。他にも、トイレや洗面所は1日1回ちょこっと拭き掃除をする。土日の午前中が雨であれば、(子供達を公園に連れて行かなくてもよいので)キッチン、洗面所、トイレの掃除をするというのをルーティンにし、日々の「掃除しなければ…」のモヤモヤをなくしました。

#### 5)With コロナ

最近ではコロナ禍で生活が変化しました。保育園の登園条件は発熱に関してかなり厳しくなり、子供達のどちらか一方が発熱すると、両方お休みになってしまう。解熱後24時間は登園できない等が追加されました。コロナ感染リスクについても不安とストレスを感じるようになりました。そこで、気がかりなことはまず排除するようにしています。帰宅時に玄関で子供達の手足をアルコールで拭いてしまう。その後、すぐ服を脱ぎ、入浴する。鼻水が出たらすぐに吸引機で吸う。目やにが出たらすぐに抗菌目薬をさす。風邪等あやしい時は早めに病院に連れていく等、できる範囲で気がかり事項を早めに取り除くよう心掛けています。保育園で鍛えられた子供達は、手洗いが非常に丁寧です。また、マスクにも慣れてきました。下の子は保育園ではマスクをつける決まりはないのに、周囲の真似をして自主的にマスクをつけたがります。制約がたくさんあるコロナ禍ですが、子供達が少しでも楽しんで過ごしてくれるよう工夫していきたいと思います。

## 4. おわりに

すべてが上手くいっているように書いてしまっていますが、そんなことはありません。失敗の連続です。特に育児については、毎度毎度、壁にぶち当たり、なんとか乗り越えてもまた新しい壁が立ちはだかります。何が正しいのか間違っているのか分からないまま、時間だけがものすごい速さで過ぎていきます。ただ、子供達は今のところ元気に大きくなってきているので、安心していきます。

働いていると仕事以外にも家事、育児、介護…、毎日大変ですよね。これを読んでいただいた方に少しでも共感いただけてご参考になれば、うれしく思います。今回はこのような原稿を書く貴重な機会をいただきまして、ありがとうございます。

(2022年6月22日公開)